

横浜市感染症発生動向調査報告 12月

《今月のトピックス》

- 感染性胃腸炎が流行しており、保育園、小学校や高齢者施設での集団感染の報告もありますので注意が必要です。今シーズンも市内からノロウイルスGⅡ.17型が検出されています。
- 咽頭結膜熱、RSウイルス感染症、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎などの報告が多くなっています。

全数把握の対象

【12月期に報告された全数把握疾患】

腸管出血性大腸菌感染症	3件	急性脳炎	3件
パラチフス	1件	後天性免疫不全症候群(HIV感染症を含む)	1件
A型肝炎	1件	侵襲性インフルエンザ菌感染症	1件
デング熱	1件	侵襲性肺炎球菌感染症	7件
レジオネラ症	4件	梅毒	5件
アメーバ赤痢	3件	播種性クリプトコックス症	1件
カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	4件		

- 1 **腸管出血性大腸菌感染症**:3件の報告があり、うち1件は同一家族内での感染事例でした。2次感染予防には手洗いが重要です。さらに、下痢症状がある人は専用のタオルを使うなど、他の人と使うタオルを別にしましょう。トイレは常に清潔に掃除し、ドアノブ・水洗レバー・電気のスイッチなど手の触れるところは、特に念入りにきれいにしましょう。
- 2 **パラチフス**:1件の報告があり、海外(インドネシアまたはフィリピン)での経口感染が推定されています。
- 3 **A型肝炎**:1件の報告があり、海外(フィリピン(セブ島))での経口感染が推定されています。
- 4 **デング熱**:1件の報告があり、海外(スリランカ(コロンボ))での感染が推定されています。
- 5 **レジオネラ症**:肺炎型4件の報告がありましたが、明確な感染経路等は不明でした。
- 6 **アメーバ赤痢**:腸管アメーバ症3件の報告があり、1件は国内での同性間性的接触による感染、もう1件は国内での異性間性的接触(性交及び経口)による感染、残るもう1件は東南アジアでの経口感染でした。
- 7 **カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症**:4件の報告がありました。
- 8 **急性脳炎**:3件の報告がありました。1件は70歳代で、検査キットにてインフルエンザA型が検出されています。他の2件(新生児及び幼児)は病原体不明です。
- 9 **後天性免疫不全症候群(HIV感染症を含む)**:無症状病原体保有者1件(国内での同性間及び異性間性的接触による感染)の報告がありました。
- 10 **侵襲性インフルエンザ菌感染症**:1件の60歳代の報告がありました。
- 11 **侵襲性肺炎球菌感染症**:幼児1件、成人6件の報告がありました。幼児例では予防接種歴が4回(7価)ありましたが、成人例では予防接種歴が確認できませんでした。
- 12 **梅毒**:5件の報告(早期顕症梅毒Ⅰ期1件、早期顕症梅毒Ⅱ期1件、無症候期3件)があり、すべて国内感染例でした。感染経路では、異性間性的接触4件、同性間性的接触1件でした。
- 13 **播種性クリプトコックス症**:1件の報告があり、感染原因として慢性腎不全による免疫不全が推定されています。

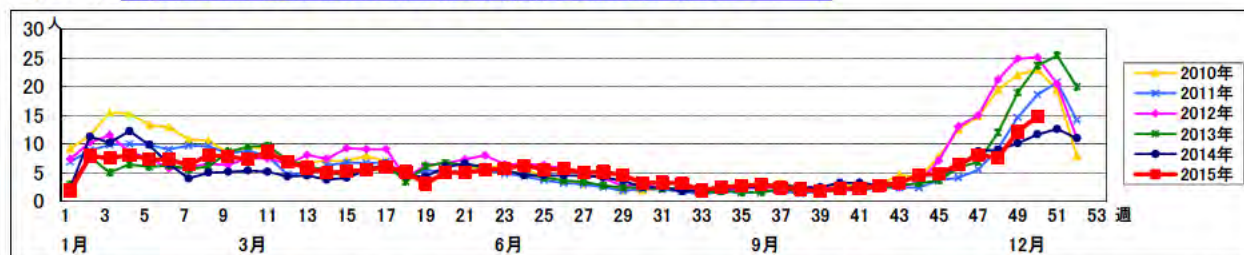
定点把握の対象

- 1 **感染性胃腸炎**:第50週は市全体で定点あたり14.85と増加傾向です。区別では都筑区35.50、鶴見区22.14、中区20.50で警報発令基準値(定点あたり20.00)を上回っており注意が必要です。今シーズンは、これまでノロウイルスの主流のタイプであったGⅡ.4にかわり、GⅡ.17のノロウイルスの流行が危惧されていることから、[厚生労働省](#)が注意喚起しています。市内でも、昨シーズンは2015年1月頃から、これまで多く検出されていたGⅡ.4にかわり、GⅡ.17が検出されるようになりました。今シーズンもまだ全体の報告数は少ないものの、GⅡ.17が検出されています。GⅡ.17はノロウイルス迅

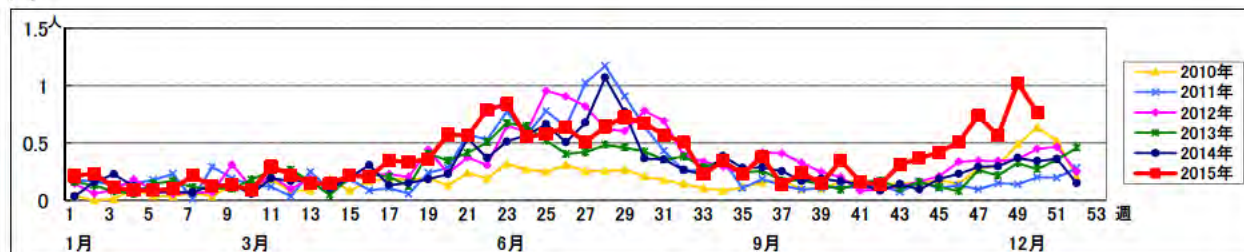
平成27年 週一月日対応表	
第48週	11月23日～11月29日
第49週	11月30日～12月6日
第50週	12月7日～12月13日

速診断検査キットでの検出感度が低いことが報告されており、注意が必要です。

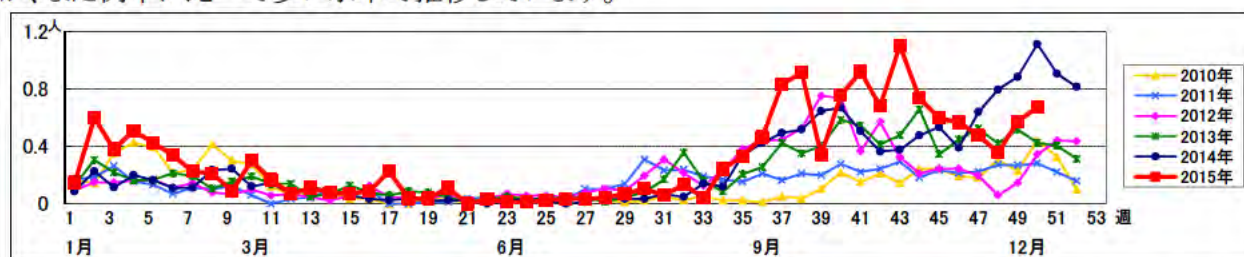
◆参考: [感染症臨時情報「感染性胃腸炎」\(横浜市感染症情報センター\)](#)



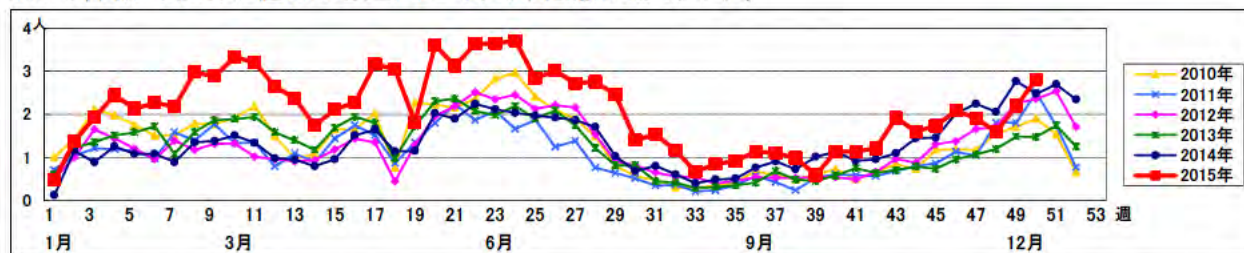
- 2 咽頭結膜熱: 第50週は市全体で定点あたり0.76と、この時期では2010年以降最も報告が多くなっています。



- 3 RSウイルス感染症: 第50週は市全体で定点あたり0.67と、今年最も多かった第43週1.10より減少しましたが、まだ例年に比べて多い水準で推移しています。



- 4 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎: 第50週は市全体で定点あたり2.81と増加傾向です。区別では磯子区9.00で警報発令基準値8.00を上回っており、注意が必要です。



- 5 インフルエンザ: 第50週は市全体で定点あたり0.17と落ち着いています。ただ、学級閉鎖も報告されており、早めの予防接種が重要です。
- 6 性感染症: 11月は、性器クラミジア感染症は男性が24件、女性が10件でした。性器ヘルペス感染症は男性が4件、女性が11件です。尖圭コンジローマは男性6件、女性が2件でした。淋菌感染症は男性が17件、女性が1件でした。
- 7 基幹定点週報: マイコプラズマ肺炎は第48週2.00、第49週2.00、第50週0.00と報告されています。感染性胃腸炎(ロタウイルスによるもの)が第48週0.00、第49週0.33、第50週1.00と、この冬シーズンでは第45週にはじめて報告されて以来、報告が寄せられています。細菌性髄膜炎、無菌性髄膜炎、クラミジア肺炎の報告はありませんでした。
- 8 基幹定点月報: 11月はメチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症5件の報告がありました。ペニシリン耐性肺炎球菌感染症、薬剤耐性緑膿菌感染症の報告はありませんでした。

【 感染症・疫学情報課 】

◇ 病原体定点からの情報

市内の病原体定点は、小児科定点:8か所、インフルエンザ(内科)定点:3か所、眼科定点:1か所、基幹(病院)定点:4か所の計16か所を設定しています。

検体採取は、小児科定点とインフルエンザ定点では定期的に行っており、小児科定点は8か所を2グループに分けて毎週1グループで実施しています。また、インフルエンザ定点では特に冬季のインフルエンザ流行時に実施しています。

眼科と基幹定点では、検体採取は対象疾患の患者から検体を採取できたときにのみ行っています。

<ウイルス検査>

12月に病原体定点から搬入された検体は、小児科定点47件、内科定点10件、眼科定点2件、基幹定点6件で、定点外医療機関からは3件でした。

1月7日現在、ウイルス分離7株と各種ウイルス遺伝子38件が検出されています。

表 感染症発生动向調査におけるウイルス検査結果(12月)

主な臨床症状 分離・検出ウイルス	上 気 道 炎	下 気 道 炎	イン フル エン ザ *1	R S 感 染 症	咽 頭 結 膜 熱 *2	胃 腸 炎	手 足 口 病 *1	流 行 性 耳 下 腺 炎 *1	水 痘
アデノ NT*3	1	1			1				
アデノ 2型	1				4				
アデノ 4型					1				
アデノ 41型						2			
インフルエンザ B型ビクトリア系統			1						
パラインフルエンザ 1型	1		1	1					
パラインフルエンザ 2型		1							
パラインフルエンザ 3型		1	1						
RS	4	2		3					
ヒトコロナ*4	3	2	1	1					
ムンプス								2	
水痘・帯状疱疹									1
ライノ	2	1							
エコー 18型	1								
コクサッキー A6型							1		
ノロ						2			
合計	1 12	1 8	1 3	5	2 4	4	1	2	1

上段:ウイルス分離数/下段:遺伝子検出数

*1:疑いを含む、*2:アデノ感染症を含む、*3:型未同定、*4:HCoV 229E or NL63、HCoV OC43

【 微生物検査研究課 ウイルス担当 】

<細菌検査>

12月の感染性胃腸炎は、基幹定点から10件、その他から3件でした。腸管出血性大腸菌(O171:H2)、腸管毒素原性大腸菌(O6:H16、O148:H28)、腸管凝集性大腸菌(O111:H21)、サルモネラ(*S. Livingstone*)、カンピロバクター(*C. jejuni*)、インドネシアおよびフィリピンへの旅行者からパラチフスA菌が検出されました。

その他の感染症は、小児科定点から4件、基幹定点から5件、その他から32件でした。*Legionella pneumophila*の血清型は6群でした。

表 感染症発生動向調査における細菌検査結果(12月)

感染性胃腸炎

菌種名	検査年月 定点の区別 件数	12月			2015年1月～12月		
		小児科	基幹	その他*	小児科	基幹	その他*
		0	10	3	2	106	118
赤痢菌					2	4	
腸管出血性大腸菌				1	1	78	
腸管毒素原性大腸菌			3		4		
腸管凝集性大腸菌			1		1		
チフス菌						1	
パラチフスA菌			1		7	5	
サルモネラ			1		61	3	
カンピロバクター				1		3	
コレラ菌						1	
不検出		0	4	1	2	30	23

その他の感染症

菌種名	検査年月 定点の区別 件数	12月			2015年1月～12月		
		小児科	基幹	その他*	小児科	基幹	その他*
		4	5	32	53	40	509
A群溶血性レンサ球菌	T1				3	6	
	T4	1			8		
	T6				1		
	T12				2		
	T28				2	3	
	T B3264				2	1	
	型別不能	3			23	4	
B群溶血性レンサ球菌					1	2	
G群溶血性レンサ球菌						5	
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌			1	1		11	41
バンコマイシン耐性腸球菌						1	2
<i>Legionella pneumophila</i>				1			9
インフルエンザ菌				1			13
肺炎球菌			1	14	1	5	96
<i>Neisseria meningitidis</i>							2
黄色ブドウ球菌					2		1
結核菌				2			159
緑膿菌							53
百日咳菌						2	3
その他			3	10		19	54
不検出		0	0	3	8	2	55

*: 定点以外医療機関等(届出疾病の検査依頼)

T(T型別): A群溶血性レンサ球菌の菌体表面のトリプシン耐性T蛋白を用いた型別方法

【 微生物検査研究課 細菌担当 】